



海軍大尉 西郷從道殿

常備艦隊司令官 野村貞

明治三十五年八月廿四日 於馬尼刺灣

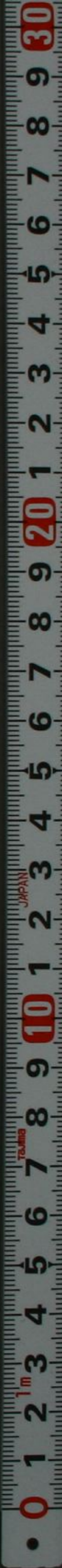
此列報長官任事時、
紙馬尼刺占領後、要件報告仕候也
追テ日本運送船ジランダー号長崎直航
通牒アリシヨリ、不取敢要件、三報告仕候旨
以共副申仕候也



旗丁番三二一号

秘

414
A 801
5



西軍降服ノ條約

西國軍司令官...

西國軍司令官...

西國軍司令官...

西國軍司令官...

西國軍司令官...

西國軍司令官...



○西軍降服ノ條約

比列賓群島司令官長友陸軍少將「ウエスレメリット」及比列賓群島ニ於ル西國陸軍司令官長友「ドンラ元エルミシハウテ」閣下トノ間ニ前日協定セラレタル條約ニ基キテ馬尼刺布ト国防禦物并ニ郵外引渡及馬尼刺布ヲ守衛セシ西國軍隊降服ノ細目ヲ規定スルカ為メニ條約セシ見下記ノ要旨ハ左ノ條約ヲ締結セリ

一、西國軍隊ハ歐洲人タル土人タルトモ同クス我陣ニ於ル凡テノ名譽ヲ保ク要塞及防禦物トモ降参シ兩交戦者間ニ平和條約締結セラル、追其兵器ヲ末國官吏ノ指示シタル場所ニ預ケ其指定シタル家屋ニ舍營シ所属長友ノ命令及末國官吏ノ監督ヲ受ケ可シ降服ノ條約中ニ包含セル者ハ凡テ自由

- 一、將校ハ引継キ其居宅ニ住シ住所ニ關スル規則及現行法律ヲ遵守スル間ハ之ヲ侵スコトナカル可シ
- 二、將校ハ携帶兵器及私物ヲ保存ス可シ
- 三、凡テ公有馬匹及各種公有物ハ米國政府ノ指定シタル將校ニ之ヲ引渡ス可シ
- 四、軍隊ノ詳細ナル調査書公有物ノ明細ナル目錄及倉庫現存品ハ本日より十日以内ニ之ヲ米國政府ニ引渡ス可シ
- 五、西國ノ將校下士官及同族ノ帰國旅費ハ關スル諸問題ハ在華盛頓政府ニ之ヲ決定ス可シ
- 六、西國ノ軍隊ハ都合次第馬尼刺ヲ去ルベシ
- 七、西國軍隊ノ預ル兵器同軍隊若クハ米子軍隊ニ要塞ヲ引上ル時ニ之ヲ還付ス可シ
- 八、西國ノ庫、現存金及其他ノ公金ハ米國官吏ニ引渡ス可シ

七、馬尼刺市其住民寺院、學校、及各種ノ私有物ハ米國軍隊ノ信義及名譽ノ保護トシテ之ヲ置ケリ

一九〇八年八月十四日於馬尼刺

米國義勇軍陸軍少將 イフウイグリン

外將校 六名

○米西平和條約(八月十七日米艦隊司令長官より平西へ通知)

訳文

此條約書ニ據ルニ合衆國ハ比津島ノ管理權及統治權ヲ定ムル平和條約完結スル迄馬尼刺ノ都市及港灣ヲ占領保持スルベシ

○比列賓群島ノ人民ニ對スルメリット少將ノ諭告
非律賓島人民ニ告ク

一 米國及西班牙間ノ戰爭ハ今年四月廿日ヨリ成立セリ再後
此島嶼ノ西班牙艦隊ハ米國艦隊ニ殲滅セシ馬尼刺市及
其市ノ砲台ハ陷落シ而シテ同地ノ西班牙軍隊ノ米軍
隊ニ降服セシハ爾ガノ親シク目撃スル所ナリ

二 今ヤ米國占領軍ノ司令官ハ本國政府ヨリノ訓令ニ據リ
比列賓島ニ來リシハ人民ニ對シテ我ヲ排斥スルコト
ヲ保護シ其個人及シ宗教上ノ權利ヲ保護スルガ爲メニ
來リシ由ヲ知ラシム故ニ今回ノ舉ニ屬シ米國ニ助力ヲ與ヘ
又ハ連カニ服従シ若クハ共同ノ運動ヲ爲シタルモハ其報トシテ
米國政府ノ救助ト保護ヲ受クルヲ以テ可シ

三 米國カ此地ニ建設シタル政府ハ軍隊占領ノ政府ナラズ以テ仍

人及シ財產ニ關スル私權、地方ノ法律、犯徒ノ處罰ニ關スル如
キ規定ハ目下依然トシテ其効力ヲ有シ、占領以前ノ此ノ普通
ノ裁判所ニ於テ施行サレ可ク、但シ裁判官ハ占領政府之ヲ
任命スヘシ

四 馬尼刺市及シ其地方三人ノ憲兵總此ヲ置キ此地ヲ數區ニ
分ケ各區ニ一人ノ憲兵副總此ヲ置ク可シ憲兵總此及シ
副總此ノ職務ニ關スル詳細ハ今後之ヲ發布スベシト呈氏大
體ニ於テハ陸軍法及シ民法ノ犯罪者ヲ捕縛シ軍法會
議ニ於テ審議スベキモノハ其罪狀ノ性質ト證據人ノ姓
名ト共ニ之ヲ其管轄ニ送致シ、又法地及シ令ハ發布スル刑
令ニ遵由シ軍法委員令、憲兵法院若クハ普通ノ刑事裁
判所ニ屬スベキ犯罪者ハ之ヲ此獄ニ拘留スヘシ

五 馬尼刺港及比列賓島ノ諸港ニシテ實際吾陸軍ノ占

領ニ屬スルモノハ此占領ノ継続スル間ハ米國及ビルヲ國民ノ商業ニ對シ開放セシム可シ但シ戰時禁制ヲ業シ且ツ輸入ノ時ニ於テハ規定ノ關稅ヲ拂フベシ

六有ラテ寺院、宗教的禮拜所、捧ケラレシ土地又ハ技藝、文學、陳列所、教育館、圖書館、存在スル場所ハ可成的之ヲ保護スベシ、故ニ歴史的紀念物、書録若クハ學術美術品ヲ破壊若クハ取テ去ルハ禁止スルコトハ堅ク之ヲ禁止ス但シ軍隊ニ必要ナラズモハ此限ニ非ズ而シテ以上ノ命令ニ及クモノハ之ニ重罰ヲ加フ可シ

上項ニ記載シタル場所及ビ物品ノ管理者ハ其狀態及ビ位置ヲ記シタル報告書ヲ送リ司令部ニ差出し自己ノ見テ以テ恰當ナリト爲ス所ノ保護法ヲ上申セバ其保護ニ與ラズ武文官ヨリ共同シテ適宜ノ訓令ヲ發スベシ

七陸軍司令官ハ既ニ本國政府ノ任命ニ從カハ、軍隊政府ノ建設ヲ發布シ且ツ陸軍總督トシテ其職務ヲ遂行スルニ當リテハ、馬尼刺人民ニシテ平和ヲ保持シ且ツ米國政府ノ代表者ニ對シテ其義務ヲ尽ス以上ハ決シテ其身體財產ノ毀損セラルコトナカレ可シ但シ米國ノ便益ト非律賓人民ノ利害ニ關シテ必要ト認メタル場合ハ此限ニ非ラス

一千八百九十八年八月十三日

米國陸軍少將 ウェスレー、ノリット

○馬尼刺府知事以下ノ任命(八月十三日カサセヨラシ)
馬尼刺府知事 尹旆國長少將 マックレーサ
日財務部長 重松廣長 旅團長少將 グリーソン

日知港
海軍大尉
グラッス
日書記友多
オリット
蔣尉左大佐
バブコック

○避難者、始末

本船ノ避難者(内地人)及エスカイ号西正婦女子が八月十日
退去十日エスカイ号築港防波堤内ニ入ル

○占領後ノ概況

- 一、占領後米軍ハ着々市内ノ警邏ヲ爲シ商買店舗ノ
營業銀リ郵便電信局南燈台ノ点燈カビテ
馬尼刺向空期船ノ開通路ニド旧ニ復シタリ尚ホ鐵
道モ二三日内ニ全通スルト云フ
- 二、西軍隊ハ前文降伏條約ニ基キ所置ニ將校以上ハ依約自
定又ハ旅館ニアリト密氏下士卒ハ寺院學校及公有家

屋ニ於テ米國ノ扶持ヲ受ケ奉勅極テ平穩ナリ食物
ハ麵包ニ換ルルニ米食ナルヲ以テ病人ノ我モ頗ル多ク

三、米軍及殺徒ノ折合ハ田滑ヲ欠クノ感心アリト虽モ平和條
約結定矣ハ衝突者クハ著シキ運動ヲ爲サル可シ

四、殺徒ハ既ニトンドバリー及エルミタニ屯營シ兵器ヲ携帶
セサルモノ、外城内ニ入ルヲ許サル

首領アキナルドハ依約バール本營ニアリテ威名益々熾ナ
リ他ノ重名首領ハ數日來エルミタニ集合セリ

五、占領後食料ハ愈々殺徒屯營地ヲ經テ市内ニ來ルヲ以テ
其妨ヲ受ケシモ昨廿三日ヨリ稍多量ノ供給ヲ得ルニ至ル又
水源地ニ殺徒ノ占有タリシヲ以テ多量ノ飲水ヲ得
ル能ハサリシカ是又昨廿三日ヨリ日ニ復シタリルニ至
ト云フ蓋シ米軍總督ト殺徒首領間ニ何ヤカノ折

合附シモノナラシカ

六、西国軍人及在函人民(西人)一般ノ意嚮ハ米國若シ比列
賓ノ占領ヲ放棄スルモ西亦再々金島ヲ鎮定シ之ヲ誰
持セシハ非常ノ兵カヲ要シ且西亦既時ノ状態ニテハ到
底出来可ラサルモノト斷念シ居ルモノナリ

七、八月十五日英艦イモタリヲ撃テ米子國旗ヲ掲ケ其榮
ノ祝砲ヲ發シ米艦若砲ス帝國亦佛獨指揮友ノ祝
砲セヌ